

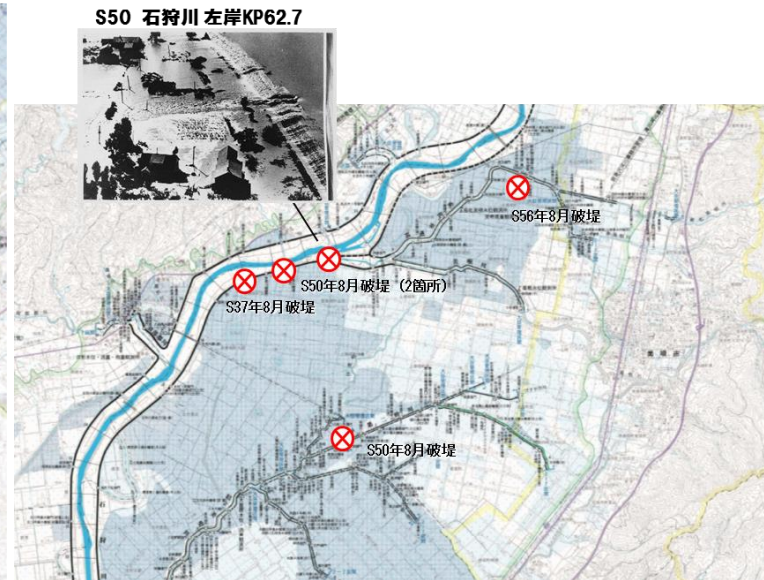
参考資料

1. 石狩川下流の地形的特徴と過去の水害 . . . P1
2. 石狩川下流流域の主な課題 . . . P2~P5

1. 石狩川下流の地形的特徴と過去の水害

- 石狩川は低平地を流れ、高い河川水位が長時間に及ぶことから氾濫の危険性が高い。また、合流する支川も低平地を流れており、本川の影響を受けて、高い河川水位が長時間継続する。
- 豊平川は急流河川であり、その扇状地に形成された札幌市の中心部を貫流している。豊平川が氾濫した場合には、氾濫水は短期間で市街部や広大な地下空間に及ぶため、道都・札幌の都市機能への影響が非常に大きい。
- 過去の洪水では多地点で溢水や破堤が発生し、昭和50年洪水では292km²、昭和56年8月洪水では614km²が浸水した。

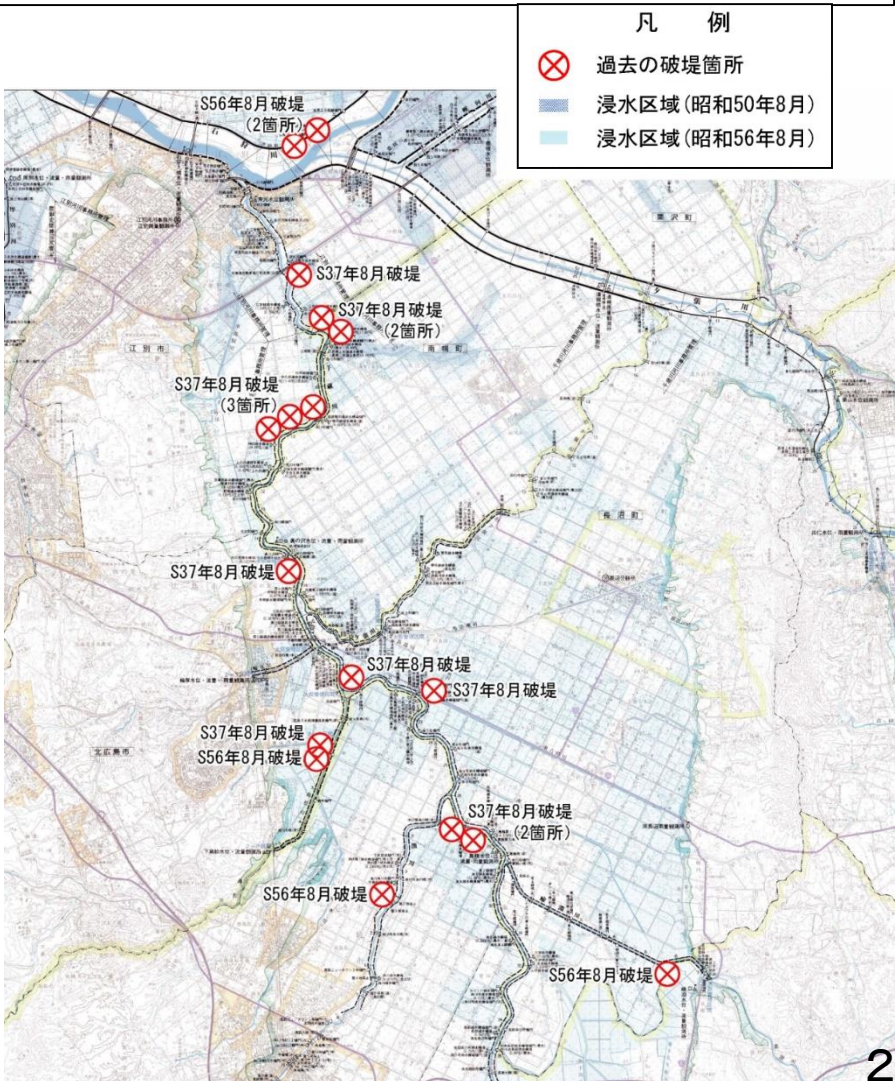
<石狩川中下流部>



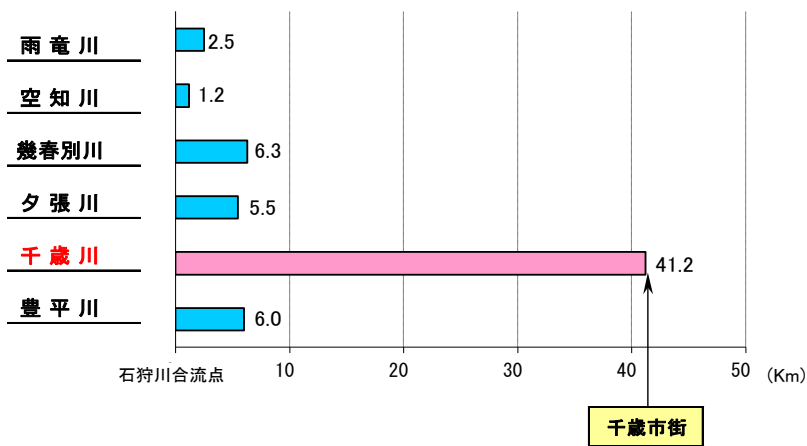
凡 例	
	過去の破堤箇所
	浸水区域(昭和50年8月)
	浸水区域(昭和56年8月)

2. 石狩川下流流域の主な課題～流域に低平地が広がり、広範囲に渡り氾濫が発生

- 低平地を流れる石狩川や合流する支川では、高い河川水位が長時間に及ぶことから氾濫の危険性が高く、さらに広範囲かつ数多くの箇所ですべて同時に発生する可能性があるため、広域的に連携した対応が不可欠。
- 千歳川では、昭和37年や昭和56年の洪水により多地点で破堤が発生した。

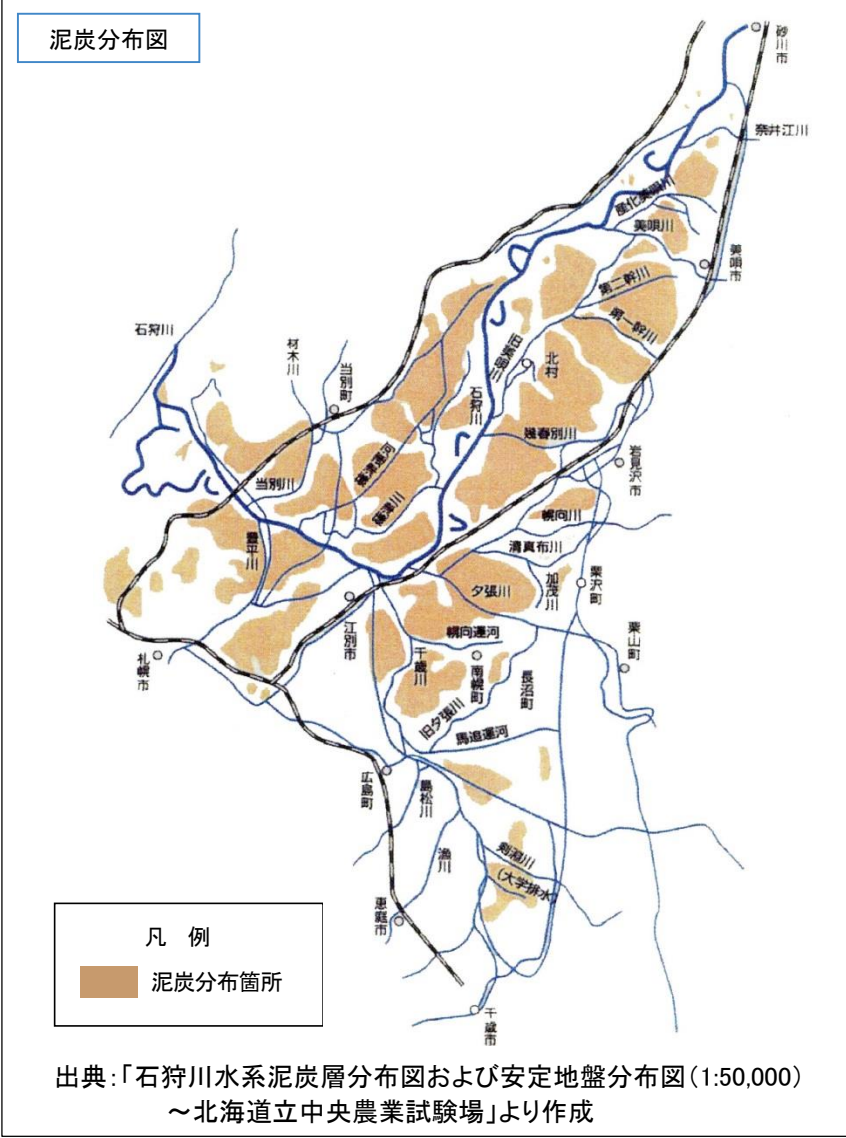
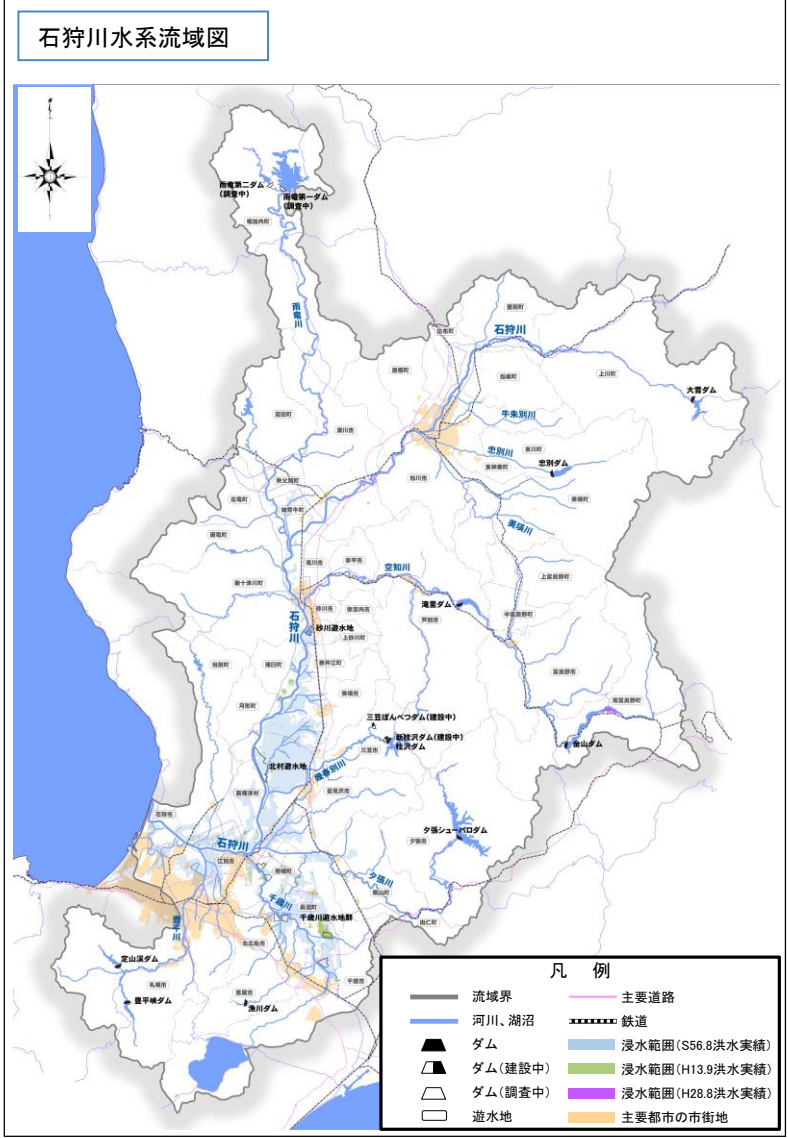


石狩川の高い水位の影響を受ける区間の延長



2. 石狩川下流流域の主な課題～長大な堤防を有し、洪水継続時間が長い

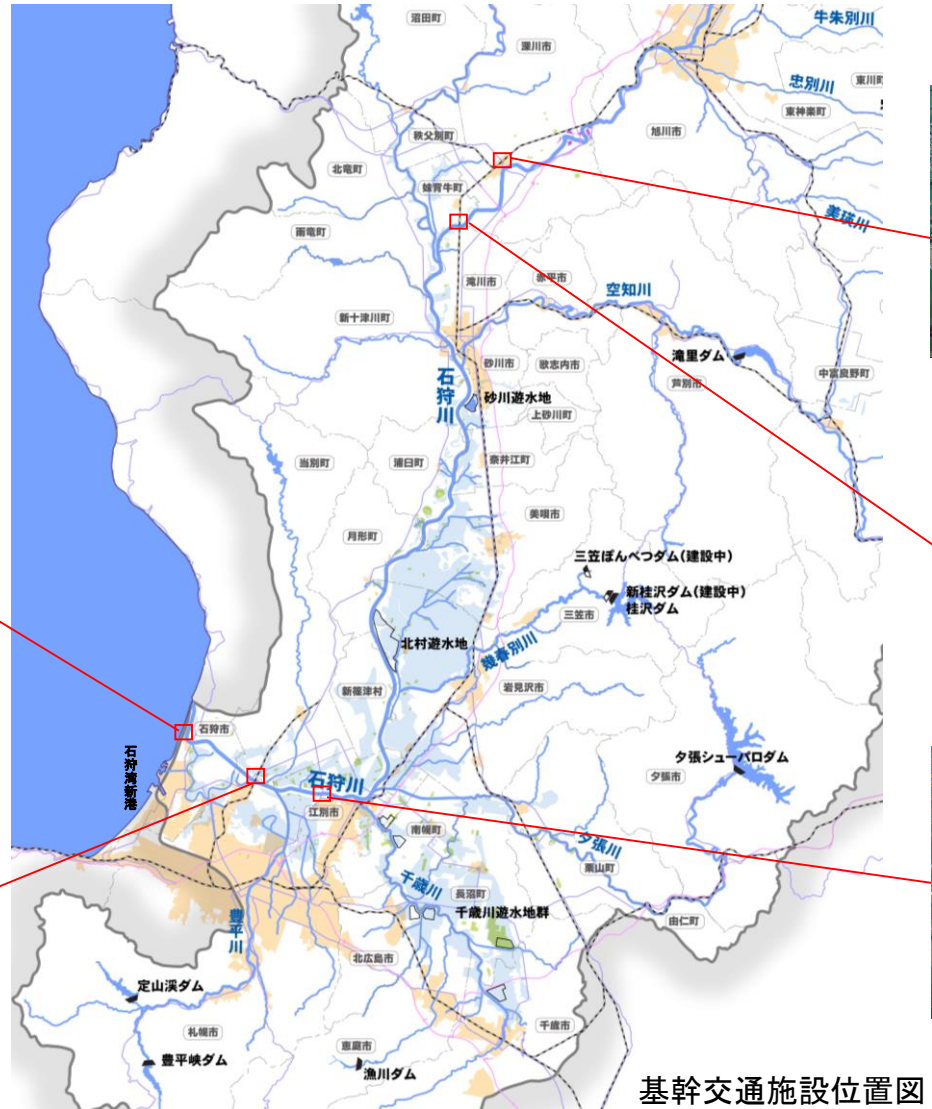
○河川の延長が長く、堤防を含め整備中の箇所も多く、多地点での水防活動を想定する必要がある。また、石狩川下流では泥炭性の軟弱地盤が広く分布しており、堤防機能の確保のため長期間にわたり適正な管理が必要である。



2. 石狩川下流流域の主な課題～北海道の中核機能を担う自治体が浸水

○北海道の経済、文化、産業の中心であり、浸水により自治体の行政機能が失われる可能性がある。
 ○昭和56年の洪水ではJRや国道の通行止が1週間に及ぶなど復旧に時間を要し経済や産業活動へ影響があった。

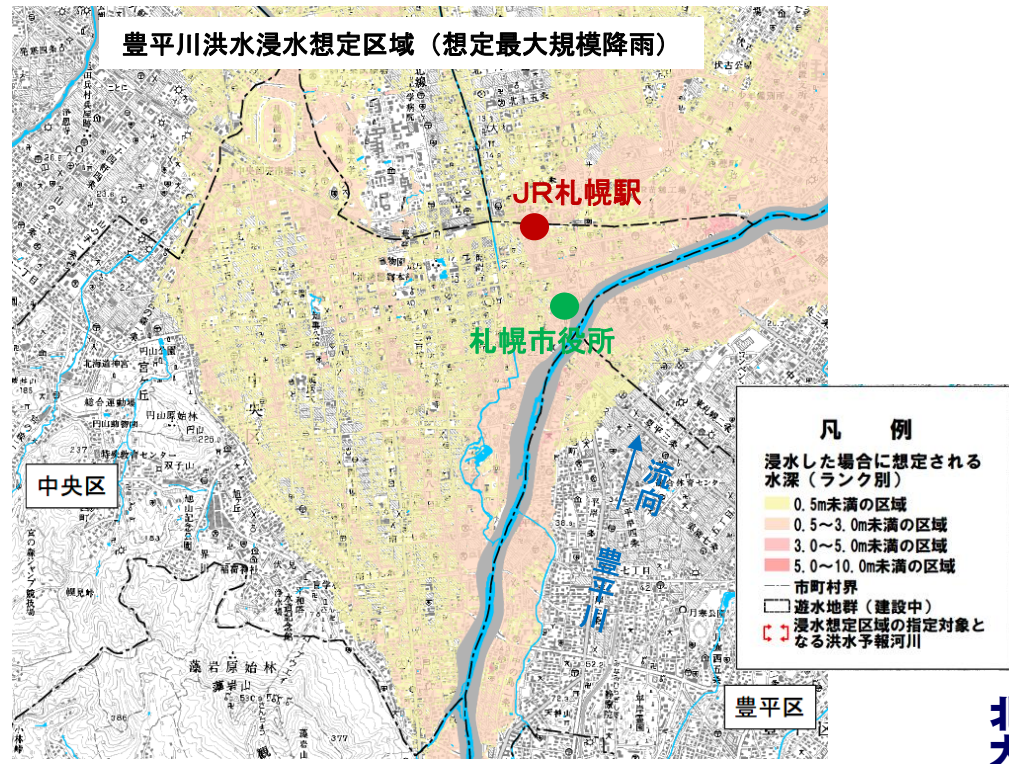
凡 例	
—	流域界
—	主要道路
—	河川、湖沼
—	鉄道
▲	ダム
▲	浸水範囲(S56.8洪水実績)
▲	浸水範囲(H13.9洪水実績)
▲	浸水範囲(H28.8洪水実績)
△	ダム(建設中)
△	ダム(調査中)
□	遊水地
■	主要都市の市街地



基幹交通施設位置図

2. 石狩川下流流域の主な課題～高度に発達した市街地の浸水等により道都・札幌市の都市機能へ甚大な影響が発生

○豊平川が氾濫した場合には、氾濫水は短時間で市街部や広大な地下空間に及ぶ。
また交通網など道都・札幌の都市機能への影響が非常に大きい。



洪水氾濫シミュレーション

○札幌市の中心市街部は豊平川扇状地に広がる

○豊平川が破堤・氾濫した場合、高速の氾濫流が高度に発達した札幌市中心市街部に到達

